



国民の森林・国有林

# 「赤広葉樹展示林の新フェーズ」

平成8年度に設定し25年が経過した「広葉樹展示林」は、80種類以上の樹木が生育する貴重なフィールドです。

まずアクセス。宮崎県宮崎市高岡町の去川国有林内、国道10号線から20分程度の場所であり、比較的気軽に訪れる

ことが可能です。

多種類の広葉樹を観ることのできるフィールドは、展示・学習の場として最適です。

施業的には、スギ造林と同様の密度で植栽されてきたため、密度調整が必要な林況となっております。今後、本格的に



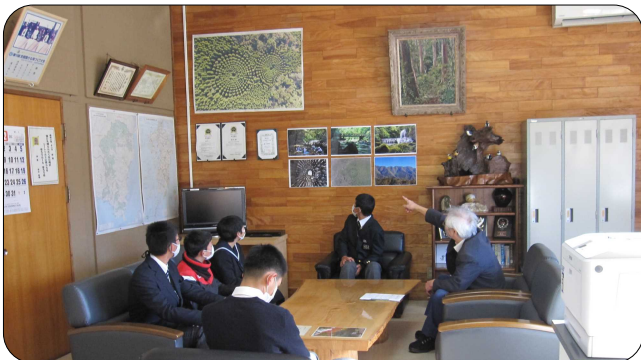
視察者への案内の様子

間伐等を実施し、経過観察する予定です。また、近年はセンダン等の早生樹に着目して追加試植しています。

これらを含め、広葉樹展示林において、現地検討会を今年度2回開催するなど、外部の方々との意見交換の場としても活用しています。

先日(1月14日)は、(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所の林木育種センター九州育種場の職員の方々が、若手職員の資質の向上のために、展示林を視察にこられました。

当センターの森林技術普及専門官外1名が約1時間案内し、①育林過程の経緯、病虫害被害状況②樹高20m、胸高直径30cm以上となったユリノキ、チャンチンモドキの状況③早生樹の試植、またセンダンの播種試験④宮崎県と連携した製材品(板)の強度試験の実施等



井上署長からミステリーサークルの説明を受ける様子

美郷町の中学生  
「肥肥杉を学ぶ！」

【宮崎南部森林管理署】12月17日、宮崎県美郷町内の中学校3校の2年生5名に肥肥杉についての学習会を当署会議

について説明しました。  
広葉樹については、効果的な育成方法と木材として利用推進が肝要であり、今日的な課題です。この課題に対抗すべく、広葉樹展示林を活用した実証試験や人材交流を一層進めることが重要と考えます。  
(担当)森林技術・支援センター

室において行いました。  
この学習会は修学旅行の自主研修として「飢肥杉の特徴や自然資源を生かした地域の活性化について学ぶ」ことをテーマに依頼があったものです。

学習会では、松永眞弥次長が宮崎南部署管内の説明を行い、田村舞技官からは飢肥林業の歴史や飢肥杉の特徴について、当署管内で研究が行われている林分密度試験林(通称ミステリーサークル)や林業遺産に登録されている三ツ岩オヒスギ遺伝資源希少個体群保護林などの代表的な国有林の写真や動画を用いて説明



学習会に参加された生徒の皆さん

当日は天候にも恵まれ、当署からは佐藤肇署長、田代美喜男森林技術指導官をはじめ8名が参加し、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため13名に縮小して参加がなされ総勢21名での研修会となりました。

## 民間連携合同研修会を実施

【福岡森林管理署】12月17日、熊本南部森林管理署管内の人吉市西浦国有林の低コストモデル実証団地において、八丁越地域森林整備推進協定と福岡県フォレストアライアンスの共催で民間連携合同研修会(低コストモデル実証団地視察)を開催しました。

はじめに佐藤肇署長の挨拶と参加者の紹介を行い、その後2班に分かれ、低密度植栽ゾーン、高下刈りゾーン、ペーパーポットゾーンなどの各ゾーンで、森林技術・支援センター職員から、シカ対策や造林事業における低コスト化手法について説明を頂き、質疑、意見交換等を行いました。



現地での研修会の様子

## 安全勉強会を実施



森林技術・支援センター職員による説明

主健康管理推進月間にあたり実施したもので、東日本大震災を教訓にした車両運転中のドライバークの対処方法等及び健康診断結果の見方、活かし方についての2本を視聴しました。

また、午後の勉強会では、再任用現場系の行政専門員2名が講師となって、切れが悪くなった鋸の目立ての方法及び木材や竹をしばる際のロープの結び方について学習しました。さらに、熊本憲三総括事務管理官が講師となって、山火事等で使用するジェットシューターの取扱、積雪した林道の通行では欠かせないタイヤチェーンの付け方の勉強会を実施しました。鋸の目立

【鹿児島森林管理署】1月19日に令和2年度1月期の安全勉強会を実施しました。当日は午前中、防災と健康管理に関するDVDを視聴し、午後からは鋸の目立ての仕方、ロープの結び方、ジェットシューターの取扱、タイヤチェーンの付け方について学びました。DVD視聴については九州局2回目の防災訓練及び1月期自



ジェットシューターの取り扱いを学ぶ



鋸の目立ての指導を受ける様子

てでは、特に体験したことがない若手職員を中心に目立てのポイントや安全に目立てを行う方法等について、ロープの結び方、ジェットシューターの取扱、タイヤチェーンの付け方については、これまで覚える機会が少なく、勉強会を実施して欲しいとの要望を受けて実施しました。特に目立ての技術は、経験の浅い職員には、なかなか難しく感じられ、今後も経験を積んでいくことが、必要と感じた有意義な1日となりました。



タイヤチェーンを装着する様子

## センダン育成の先進に学ぶ

早生樹と期待されているセンダンにつきましては、全国的に熊本県の取組が目されおり、熊本県甲佐町の舞の原試験展示園にてはその中心となっている施設です。

1月19日、局及び森林技術・支援センターの職員を主とし、熊本県林業研究・研修センター

育林環境部長横尾氏の現地案内により視察を行いました。横尾氏からは、センダンに関する育苗・育成・利用等に関する知識、熊本県のこれまでの普及の経緯や植栽している選抜された個体の状況について、説明に加え質疑応答により、これまで蓄積した知見を惜しみなく教えていただきました。

九州森林管理局管内にはいくつかのセンダンの試験地があり、今後においても新しい取組を考えているところです。今回の視察により、その取組への貴重な知見を得ることができたと確信しました。

【担当】技術普及課



選抜した個体から採取した種子の苗木

**安全衛生確保対策 連絡協議会を実施**  
**【北薩森林管理署】** 12月17日、当署管内の伊佐市以外を管轄する川内労働基準監督署と連携し、請負現場への安全パトロールと安全衛生確保対策連絡協議会を実施しました。

当日は、管内の森林整備事業（活用型）の事業実行箇所において、合同のパトロールを実施し、高性能林業機械の稼働状況や林業現場の実態を安全性重視の観点からパトロールしました。その後、署会議



選抜した個体から育成したセンダン（植栽後3年）



活発な意見交換が出来ました

室に場所を移し、当署管内の概要等を含めた事業量等の説明を行い、川内労働基準署太良木安全衛生課長から、林業事業における安全啓発についてご指導を頂いた後、全体での意見交換を行い、パトロール現場での安全対策への気づきや安全に対する取組みなどを協議しました。

当署においては、本年度も伐倒作業中における労働災害が2件発生するなどなかなか労災ゼロを達成できない状況が続いており、署としても憂慮しているところです。

今後の事業体の安全指導の在り方として、受注事業体の事業の進捗状況を見ながら、各事業体に参集頂いた中で安全意識の高揚を図れる取組を



### 安全パトロール中!

体に就労して1年目の新規就労者(10名)並びに就労2年目の者(11名)を対象に「緑の雇用」新規就業育成推進事業によるフォレストワーカー1集合研修を当署管内国有林のフィールドを使って実施しました。

第1回目の研修は1年生を対象に10月14日から3日間、第2回目は2年生を対象に11月12日から2日間の日程で保育間伐の研修を行いました。

当し協同で行いました。保育間伐の研修では、初日に安全な間伐方法等を中心に講義を行い、2日目以降は研修生を3班に分けて選木から伐倒までの実技研修を行いました。

特に災害が多発している伐倒作業では、選木した後に伐倒方向を決め、受け口・追い口の伐り方から、くさびを使用して伐倒し退避するまでの一連の作業の基本動作等を繰り返し指導しました。

また、新規就労者の研修箇所は、間伐がされていないヒノキ人工林(25年生)の次代検定林であったため、伐倒木の殆どがかかり木となったことから、フェリングレバーを使用したかかり木処理について入念に指導したとります。



### 伐根から受け口・追い口切りの検証を実施

草等を全刈し、末木枝条が多い場所ではチェーンソーで切断後に筋置きするなど地拵作業を行った後に、ヒノキの裸苗450本を山鋤を使って植栽しました。1年生の中には初めて植付作業を行った者もあり、丁度の大きさの植穴を掘るのに苦労しながら丁寧に苗木を植えました。

今年の研修を通じて感じたことは、2年生が昨年の研修時より格段に技術力をアップさせ、次の動作を頭で考えるのではなく、身体で覚えてスムーズ

計画していきたくと考えています。(ただ、コロナ禍の中にあつてどこまで人を集めていいのか苦慮しますが) いずれにしても、労働災害のない事業実行が完遂されるようこれからも請負事業者等の労働安全対策に努めていくこととしています。

## 国有林のフィールドで「緑の雇用」フォレストワーカー集合研修を実施

【長崎森林管理署】 昨年に続き、長崎県森林組合連合会の依頼を受け、県内の林業事業

第3回目は1年生を対象に12月2日から2日間、第4回目は2年生を対象に12月10日の1日間の日程で地拵・植付の研修を行いました。

当署からは、村田孝彦署長、鹿田純吉森林技術指導官、渡邊昭伍総括森林整備官が講師として参加、チェーンソー等の実技指導は長崎林業が担



### 植栽手順の説明の様子

次に、地拵・植付の研修では、初日に安全な作業方法や低コスト造林等についての講義を行い、2日目(2年生は初日午後)は実際に皆伐跡地での実習を行いました。

まず、刈払機で雑



フェリングレバーを使った掛かり木処理の様子

ズに作業を行っていたところ  
です。研修生の1年間の成長  
を感じながら、さらなるレベ  
ルアップと将来の林業を担っ  
ていく『柚師』に定着するこ  
とを願って研修を修了しまし  
た。

## ゼロ災月間開始に当たり 安全懇談会を開催

【大分西部森林管理署】2月  
1日、局ゼロ災月間の開始に  
当たり、当署山国森林事務所  
で安全懇談会を開催し、ゼロ  
災に向けた安全確保の取組を  
再確認しました。

当日は、事務所に所属する  
庄司拓平主事、佐々木修身森



### タッチアンドコールを行う所員

中津市一円の国有林  
を管理する山国森林事  
務所は、有害鳥獣の捕  
獲にも精力的に取り組  
んでおり、庄司主事は  
大ベテランの佐々木森  
林技術員から、安全か  
つ効率的にシカ等を捕  
獲する技術を日々学ん  
で実践しています。当  
日も懇談会終了後、林

林技術員が参加し、  
署長の進行で安全  
懇談会を実施し、  
身体を十分にほぐ  
して作業に着手す  
る等冬季作業にお  
ける安全確保のた  
めの取組内容を確  
認しました。

年度末で定年を  
迎える佐々木森林  
技術員は「最後に  
で気を抜かずに安  
全に作業をやり遂  
げたい」と語り、  
当地で2回目の冬  
を迎えている庄司

主事も「先日は数十センチの  
積雪があった。車両の運転に  
は路面の状況に十分に  
気をつけない」と気を  
引き締め、タッチア  
ンドコールを主唱して懇  
談会をしめくくりまし  
た。



### 目立つ服装でシカわなを点検

【宮崎南部森林管理署】当署  
管内には、昔から噂になって  
いて具体的に確認されていな  
い滝が存在しています。その  
ため、1月15日にMRTラジ  
オフリーアナウンサー、苔で  
有名な服部植物研究所のスタッ  
フで無類のコケマニア、イモ  
ムシの研究者、宮崎植物研究  
会会員、北郷森林ガイドいつ

**噂の滝を確認！  
大自然に感謝**

つの木会長の各会に造詣の深  
い女性の方々5名、当署職員  
5名の10名で2箇所の現地踏  
査を行いました。

1箇所目は、岩の上を水が  
流れる滝が板谷森林事務所管  
内に存在すると言われていた  
槻之河内滝（宮崎県総合博物  
館の特別展「美しき宮崎の滝  
200」2015年10月17日



槻之河内滝

内でも目立つ色のアノラック  
とヘルメットを装備して仕掛  
けたわなを点検し、見事シカ  
のオス1頭を捕獲しました。  
安全にシカ等を捕獲する技  
術について佐々木森林技術員  
は「しっかりと手順を踏むこ  
とが何より大事」、庄司主事  
は「最初は緊張したがシカが  
わなにかかっても落ち着いて  
対応できるようになってきた。  
慣れて慢心しないようにした  
い」と語っていました。

当署では山国のほか4つの  
森林事務所日々現場業務に  
従事しています。国有林から  
災害を出すことのないよう、  
引き続き安全確保に取り組ん  
でいく考えです。



岩見の滝

（11月29日）で紹介された総落差46mの大きな3段の滝で、今回確認したところ噂どおり岩の上を滑るように水が流れていて、上部には段差があり滝壺が確認されました。

2箇所目は猪八重照葉樹林生物群集保護林内にある滝で、猪八重の滝風景林で有名な五重の滝から上流約1kmに位置する岩見の滝です。

2年前までは猪八重の滝風景林内でありましたが、上流部の照葉樹林が平成30年9月に猪八重照葉樹林生物群集保

護林に指定されたことに伴い、風景林から保護林に変更になった場所にあり、滝の下部には誰も行ったことがなく今回初めて現地踏査を行いました。

みごとな垂直の滝で高さ22mもあり、今回は乾期の1月で水量は少ないですが、梅雨時期等の水量の多い時期には壮大な滝の姿が見れることと思います。

沢を歩いていくと、この渓谷は化石が多いと聞き、探したところすぐにウニの化石（丸いまま）を発見し、驚い

たところであります。

今回参加された方々からは、「噂には聞いていましたが今回同行させて頂き、初めて見る滝に感動しました」、「猪八重渓谷の大自然を再認識しました」、「またこのようなことがあったらぜひ案内して欲しい」等の声があり、実り多い現地踏査となりました。

参加された皆さんは、イン스타그램・Facebook等でアップされています。

## 安全衛生確保対策 連絡協議会を実施

【熊本森林管理署】2月4日、菊池市役所会議室において、くまもと自然休養林の「菊池



挨拶する川畑署長

渓谷を美しくする保護管理協議会」の令和3年総会が、菊池市をはじめ阿蘇市、環境省、熊本県、警察・消防、観光関係団体の協議会員及び当署から川畑充郎署長、下大迫伸一総括森林整備官、奥田博司首席森林官が参加して関係者19名で開催されました。

総会では、協議会長の江頭実菊池市長の挨拶に続いて、川畑署長から「当署としても全面的にバックアップするので、引き続き菊池渓谷内の施設の充実、歩道を含めた安全対策に万全を期して頂きたい」との挨拶の後、令和



協議会総会の様子

及び収支予算、菊池渓谷管理規程の制定等の議案に対して、活発な審議が行われました。

菊池渓谷内では、熊本地震からの復興のシンボルとして新しいビジターセンターが昨年4月からリニューアルオープンしていますが、本年度は菊池市により渓谷内の安全対策のために防災無線、監視カメラの設置や右岸側の歩道整備工事を、熊本県により左岸側の歩道上部の落石防護柵の設置工事が進められており、更なるレク森内の活性化に努めています。



## 安東 茂さん

随分と昔の話になります。最初に勤めた会社が製紙会社で、建材部門の研究開発部に配属され、数年間床材（フロア）の開発に携わりました。

木は伐採され木材となっても、なかなかこちらの思い通りにならぬ（言うことを聞かない）、木という生命力を依然持ち続けていることへの驚きでした。

奈良の法隆寺や岩国の錦帯橋等に昔からの木材（建

材）が使われ続けているのも、正に木の持つ生命力の為せる技だと思いません。

昔から森林に依存して静かに暮らしてきています。一方、シカ、イノシシ、サルといった動物は本来は森林性なのですが、行動や食性等の生態的な特性から私たちの生活圏を脅かす害獣として駆除

森林は具合が悪いと、害獣たちの悪さの増加やクマの出没、あるいは豪雨による崩壊災害、地球温暖化等我々にいろいろな悪影響をもたらします。さらに森林を構成している樹木も衰退していき

森林そのものが不健康になっていきます。不健康な森林では健全な命は育ちません。健全な森林にこそ健全な生命が宿ります。

お話ししてきたように、私はこれまで木（木材）と森林を相棒に共に歩んできました。この度国有林モーターに任命していただき、森林管理局の皆様の様々な取り組みを通じて、これまでとは外側から眺めていた森林を今後は内側から見つめて理解し、自分なりに健康な森林の在り方について熟慮していきたいと思っております。

木と共に歩んでいきます、これからは

# 『木と共に歩むこれからは』

特性を少しでもクリアした木質の床材の開発を目指しておりました。

当時のプラスチックタイルや塩化ビニル等の木材以外の素材のフロアが主流でしたので、木質フロアの復権を目標としていま

ム、河川、溪流等を対象とした森林環境について、動物調査を長年にわたって行ってきました。森林では、普段なかなか見ることのないヤマネ、カモシカ、イヌワシ、クマタカをはじめとする森林性の希少な動物にも数多く出会ってきました。彼らは、

森林は具合が悪いと、害獣たちの悪さの増加やクマの出没、あるいは豪雨による崩壊災害、地球温暖化等我々にいろいろな悪影響をもたらします。さらに森林を構成している樹木も衰退していき

森林そのものが不健康になっていきます。不健康な森林では健全な命は育ちません。健全な森林にこそ健全な生命が宿ります。

お話ししてきたように、私はこれまで木（木材）と森林を相棒に共に歩んできました。この度国有林モーターに任命していただき、森林管理局の皆様の様々な取り組みを通じて、これまでとは外側から眺めていた森林を今後は内側から見つめて理解し、自分なりに健康な森林の在り方について熟慮していきたいと思っております。

木と共に歩んでいきます、これからは

森林そのものが不健康になっていきます。不健康な森林では健全な命は育ちません。健全な森林にこそ健全な生命が宿ります。

木と共に歩んでいきます、これからは

## 「2021福岡県の国有林カレンダー」を作成

【福岡森林管理署】福岡森林管理署が管轄する福岡県内の国有林では、計画的な間伐等の森林整備、治山事業による荒廃地の復旧、希少な生物が生育している森林の保護、森林とのふれあい体験場所の提供等を行っています。

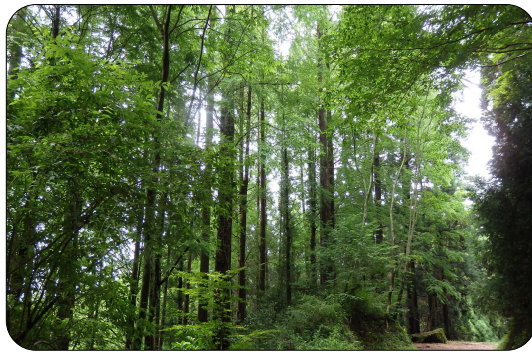
また、国有林は奥地山地や水源地域などに分布しており、福岡県の地域特有の景観や豊かな生態系を有する森林も広がっています。

しかしながら、地域の皆様も国有林の所在や取組、見どころ等をご存じであるかという点、必ずしもそうとは限りません。

このような中、福岡森林管理署では、昨年作成した「2020福岡県の国有林」のカレンダーがたいへん好評であったことから、今年も多くの皆様に国有林の取組や風景を紹介するため、職員が撮影した写真で「2021福岡県の国有林」カレンダーを作成し、署ホームページに公開していきます。

（福岡県在住）

今後とも、各種取組等を著  
 ホームページに掲載するなど、  
 国有林からの情報発信やPR  
 をしていきたいと考えていま  
 す。



5月：メタセコイヤの森（太宰府森林事務所管内）



2月：風の被害から人家・農地を守る三里松原の  
 防風保安林（若宮森林事務所管内）

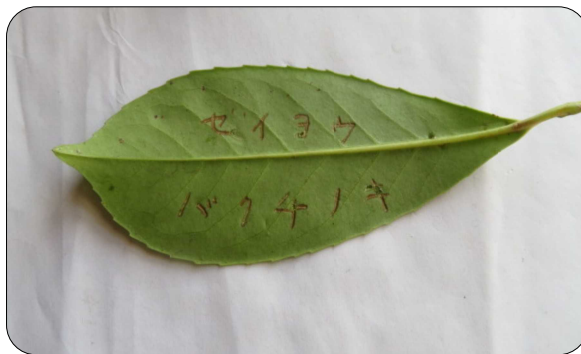
都会の中の憩いの森  
**多様な植物**  
**監物台樹木園の**



セイヨウバクチノキ（以下セイヨウという）は、樹木園の中央東側にバクチノキと並んで植えてあるので、比較しながら観察することができません。一番の特徴は、バクチノキは樹皮が剥がれるが、セイヨウは皮が剥がれないことです。「皮が剥がれる」ことを「身ぐるみ剥れる」ことに例えての和名です。



また、バラ科の特徴である「蜜腺」がないことも特徴です。牧野図鑑では、違いをセイヨウは葉柄が短いこと、葉の先端がながくとがらないことの2点があがっています。さらに、セイヨウでは、熱を加えるとタラヨウに劣らないような紫環（死環ともいう）ができることです（写真中央参照）。機会があったら試してみてください。



このようにはっきりした相違点があるのですが、セイヨウは何処にでも植えてないので、イントラクションとして活用できないのが残念です。樹木園で観察しながら相違点を確認すると楽しいかも。

森林インストラクター  
 安楽 行雄

159  
**セイヨウバクチノキ（バラ科）**

発掘現場で約3000年前のミイラが納められていた。二大発見のミイラが今見られる。歴史が覆さる。折れ果す。入る。樹木園で観察しながら相違点を確認すると楽しいかも。

